

PRO-LIFE

胎児を守る運動

中絶に反対する運動

2001年1月 No.123

命を守るための断固とした闘い

祈りましょう。

困難なケース

中絶を正当化するために、困難なケースが前面に押し出されることがよくありますが、オーストラリアにおける中絶の大部分が都合上の理由で行なわれているということは、悲劇的な事実です。実際、たいていの中絶は、他の避妊方法で失敗したときに行われているのです。このような考え方が、「いつでも受けられる中絶」とか「選択する権利」という言葉で表現されているのです。

罪のない命を奪う権利は、誰にもありません。生か死かの選択の権利は私たちにはありません。それは神に属するものなのです。

中絶の理由として前面に押し出される困難なケースは、非常に重要な問題を提起し、同様に重要な回答が必要とされます。

神が命の創造主なので、からの受胎も創造主である神の御心が表現されたものなのです。受胎の奇跡が意味するものは、どの胎児も神の御姿のままに造られているということなのです。

レイプや近親相姦や遺伝病の発見は、深い苦悩や大変な心の苦しみを引き起こします。しかし、造りたまうたのは神であり、目的があつて造られたのだということ

今日私たちは、人間の命を守る

という、文明社会のための重大な闘いの一つに従事しています。

ローマ法王、ヨハネ・パウロ2世はこの闘いをいのちの文化と死の文化との闘いだと呼びました。「いのちの福音、No28、一九九六年」

最近私たちは、ここ西オーストラリアで、罪のない命を意図的に奪い去ることを合法化しようとする企みを目撃しました。安楽死や自殺補助やいつでも可能な中絶や障害を持って生まれてきた子どもへの治療を中止することを合法化しようとする動きは、当然神に属するもの、つまり生と死を支配する力を奪おうとする企みに他ならないのです。私たちは罪のない命を守るために敢然と立ち上がりなければならぬのです。そうしなければ私たちの文明は崩壊してしまつてしまう。

中絶に関して人々の間で行なわれている論争によって、生と死という非常に重要な問題が前面に押し出されてきました。現在行なわれている議論が非常に感情的になることは、不思議なことではありません。私たちの社会で中絶を認めることが突然問題となり、何の妨げもなく行なわれてきた中絶が、

今明るみに出されたのです。

ローマ法王は、中絶を斡旋することは、いかなる時でもなぜ間違つたことなのかを明確に述べられて、「それは胎児を意図的に直接に殺害することです。」と語つておられます。「いのちの福音、No58」

このことが議論の鍵となる問題です。このことは揺るぎない道徳的原則であり、その上にキリスト教会は、岩のように立っていません。岩のように立つていなければならぬのです。つまり、私たちは、罪のない人間の命を奪うことにおいて正当化されることは決してないのです。

生まれたばかりの命

子宮の中で芽生えた命が、人間の命でなく細胞の塊であるとか、「人間になる可能性のあるもの」であるとか主張する人がいます。そのような人々は何と間違つた考え

を持つていることでしょうか。生物学で、私たちが扱っているのは子宮の中で成長している新しい命では決してない、という間違つた考えは取り去られたのです。

聖書は、胎内の子どもは完全な人間であると教えています。エレミア書を読むと、私たちは天地創

造の時から神が私たちを愛されてきたことを考えさせられます。「お

まえを胎内につくるよりさきに、私はおまえを知っていた。母のふところから出るより先に、私はおまえを聖別し、」(エレミア書 1:5) 社会は、胎児が完全な人間であることを否定し続けることはできないのです。

私たちは無知は許すことができず、胎児についての真実を知つていながら、まだ命を奪い去つてよいと考えている人々を許すことは困難なことです。自分たちが胎児を殺したという否定できない証拠を自分の目の前で、目撃しながら、中絶を続けていくことができる医者があるのは、本当に信じられないことです。

人間の命を尊重し、命を救うためにできるかぎりのことをしようとして見ることが見ていてわかる、医者や看護婦の患者への愛情と看護に私たちは、心からの称賛を借しみません。それなら、なぜ胎内の子どもに対して違つた態度を取りうる医者があるのでしょうか。

そのような医者の目が開かれるように祈りましょう。彼らが、自分たちが行なっていることがわかり、これ以上の中絶を拒否するように

(1ページから)

を否定してはいけません。これら全てのケースにおいて中絶は解決方法ではなく、またそうありえないということをはつきりとさせましょう。このような状況に直面している全ての女性や家族は、医療スタッフや、ソーシャルワーカーや、カウンセラーや、家族や友人や、地域社会の他の住民からのサポートを受ける権利があります。私たち全員が、このような重大な問題に直面している女性が求めているものを敏感に感じ取り、彼女たちが危機を切り抜ける助けとなるために彼女たちをそばで支えなければなりません。

もし中絶をすすめるなら、それは全く見当違いの思いやりなものです。胎児の命が奪われてしまえばかりでなく、中絶が母親に長期間に影響を与えることは、私たちが得ている十分な情報によつて分かっており、そのような忠告は決して思いやりのあるものではないのです。このことは、「困難なケース」の中絶の場合でもそうであつて、その場合、中絶の心理的影響は特に精神的外傷となりうるのです。

身体的障害

身体的障害を持った人々の、教育や仕事や宿泊や他の社会的支援に対する権利が認められるようになるにつれて、ようやく私たちの社会におけるそのような人々の尊厳が認められるようになりました。障害が発見されたために中絶されるならば、胎児の権利は、痛ましいことに、否定されることとなります。このよう

母子子

私たちが胎児の心配しかしていないと思わないでください。私たちは母親と、母親が宿している赤ん坊の、両方を心配しているのです。私たちの立場は次のようであればなりません。つまり母親をいたわりながら胎児を守るといふことにおいてゆるぎのないものでなければなりません。私たちの援助は、金銭の力の範囲を越えたものでなければなりません。友情と理解と思いやりが、母親とその胎児に対する私たちの対応に必要とされることなのです。

身体的障害を持った人々の、教育や仕事や宿泊や他の社会的支援に対する権利が認められるようになるにつれて、ようやく私たちの社会におけるそのような人々の尊厳が認められるようになりました。障害が発見されたために中絶されるならば、胎児の権利は、痛ましいことに、否定されることとなります。このよう

子どもたちに門戸を閉ざしているなら、私たちが両親に障害のある子どもたちを産むようにすすめることは全く矛盾したことになるでしょう。障害を持った子どもたちを私たちの教区や学校の完全な一員にすることが今私たちが直面している急務なのです。

法律

もし中絶に関する私たちの道徳的立場が明確なら、法律に書かれてあることは重要なことでしょうか。大変重要なことです。法律は強力な教育手段です。もし法律がいかなる理由であつても中絶を許すならば、胎児の命はもはや絶対侵さざるべきものではなくなり、法律はもつともつと多くの例外を認めるために、修正されたり拡大解釈されたりすることが起こりうるのです。法律は命を守り、その破壊を許してはならないのです。

結論

西オーストラリアのカトリック教徒と全ての国々の皆さん、命を守るために力を合わせましょう。個人主義を助長する俗世間の価値観に抵抗し、神のみにある命を支配する力を自分の

ものにしようとする人々に反対しましょう。

胎児の命を守るために独善的になつてはいけません。非の打ち所のない人は誰もいないのです。それでもやはり、胎児の命が侵さざるべきものであり、破壊することはできないことを認めることは、決して独善的ではないのです。それは神から私たちに託された真理なのです。従つて、私たちは、勇気をもたなければなりません。決して暴力に頼つてはいけません。私たちの立場を公言し、真理のために傷つく覚悟をしなければなりません。が、決して他人を虐待してはいけないのです。私たちは、「敵を愛し、自分を憎む人に善を行い、自分をのろむ人を祝し、自分を譏言する人のために祈ら」なければならぬのです。(ルカによる福音書 六：27-28)

私たちは断固として命の神聖さを主張するつもりです。神が人の心を変えてくださるでしょう。私たちの使命はその真理を証明することです。中絶の問題が文明の境界線であることに疑いを持つてはいけません。その境界線を越えれば、命はもはや神聖なものではなくなるのです。

B・J・ヒッキー大司教
(オーストラリア)

縮小するロシア

ロシアからのデータは依然として暗たんたる状況を描き出している。ロシアの人口は昨年八千万人も減少した。八年前と比べると三百万人も減っている。今月ロシアの報道機関が報じたところによると、一件の出生に対して、中絶は二件あるという。さらに、アルコールの濫用による高死亡率、公衆衛生システムの欠如、より深刻化するエイズ問題、他国への移住、結核、経済危機、南部での内戦、驚くほど高い自殺率といった問題が加わっている。一体、この国の将来はどうなつてしまふのだらう？

プロ・ライフ

「あなたはそうすべきではない」とわれわれの声

月刊雑誌「First Things」の最近の記事で、編集者がこう書いている。「中絶論争は、人間のいのちがいつ始まるかについての個人的意見の問題ではない。このいつ始まるか、という疑問は、道徳や政治の問題でもなく、個人の考えの問題でもない。いのちの始まりについての問題は、すでに科学によって必然的に、また公然と決着が付いている。

しかし、法律で守られる社会の一員として認められるのはどの種類の人間のいのちか、という問題となると、それはまぎれもなく政治問題である。政治が、私たちの生活をいかにも秩序立てるべきか、というものであるのなら、中絶も「私達」とは誰を指すのかという点で、避けられない政治問題なのである。それは個人的な問題でなく、国民全体の問題であり、すなわち誰を「私達」に含め、誰を除外するのか、ということなのである。」

中絶問題は何故なくならないのか？

カナダの病院に随意の治療的流産委員会を創立したことで、ピエール・トルドー元首相は60

年代後半、この問題を解決した

と書いていた。中絶問題はこれで消え去る、と言われていた。ところがそれは違った。その後オタワ州のボブ・レイ政権が（残念なことに後任はハリス政権だ）無言の威圧の態度をとり、中絶クリニックの周りには、反対運動や自由演説を禁ずる「透明地帯」を作った。しかしそれでもリンダ・ギボンズのような勇敢な熱情家が何人か、そこで膝まづき祈りを捧げ、警察に逮捕されて牢屋に入れられたりした。

最初の頃の議論の的は、胎児の人間性についてであった。その議論は、ノイハウスが正しく認識しているように、今では最終的に解決されており、残っている根本的な問題は、全ての人間に生じる基本的な法的保護とは何か、ということである。

残念ながらその問題は私達にとって、社会としての私達とは何か、という疑問の核心をついている。もし私達が、20世紀のキリスト教界から受け継いだものをこれからも引き継いでいこうと思つたら、私達は、人間の仲間である無防備な弱い立場の人達を守る、道徳的な務めを忘れて

はならないだろう。

しかし道徳の務めに従って行動するのは簡単なことではない。それは時には苦しく、多くの場合不自由である。けれど、道徳心を押さえようと強く抑制すればするほど、また良心の呵責を無視しようとすればするほど、私達には「あなたはそうすべきではない」という静かで小さな声が聞こえてくる。

ここにこそ中絶問題の中核がある。議会にあるのではなく、裁判所にでもなく、井戸端にでもなく、私達自身の中にある。意識の上では、機械的に自己中心的な自分が、やってしまえ。子どもは産まれてきてこそ初めて子どもである。もし人生の邪魔になつたり人生計画の中断になるなら、その子を中絶してしまえ」と言うかもしれない。しかし無意識の中で、本能は、自分の良心は分かっている。いのちとは受精の瞬間から始まるものであり、いのちとは神が私達を信用して与えて下さった贈り物であり、そのいのちを自分達の小さな工ゴを満たすためにいじくるのは自分の魂を危険にさらすことになるということ。だからこそ、

紀元前4世紀のヒポクラテスの誓いからデイダケー（1世紀のキリスト教法典）、そしてマザーテレサまでずっと、中絶は咎められてきた。

中絶問題は決してなくならない。何故なら、それは重要な問いを提議するからである。いのちとは何か？という問いを。この問いは道理だけで答えられるものではない。信念が道理を補わなくては答えられない。

この問いのただ一つの本当の答えは、いのちとは人間の長い経験の中で最も基本的なものだから保護しなくてはいけないということである。いのちとは愛する神からの贈り物であり、神のイメージを伝えるものであるからこそ、それは大切なのである。

私達は畜産農園の動物達のように、優生学的にすぐれたものだけ選ばれ、基準に満たなかつたら排除されてしまう人生を選ぶのか？それとも家族として、胎児も年配者も病弱な人も障害者もみんな、兄弟姉妹として生きるのを選ぶのか？

この問いはこの新しい世紀に持ち越され、その答えは今だにはつきり出ていない。

イアン・ハンター

いのちの福音

中絶による子どももの殺人を「保護」する法律は、真実でなく、強制力もありません。その理由は以下の通りです。

「生活のどの分野においても、法律が良心にとつて代わつたり、その権限外の物事について基準を強要することはできない（DONUM VITAEより引用）そしてその権限とは、人々の基本的人権の認識及び保護のための公共の利益の確保、平和と公共道徳の促進である。法律の真の目的とは、すべての人が「私達が敬虔に謹厳に静かな平和な生活を送るため」(テイモテオへの第一の手紙2:2) 真の正義が実現された秩序ある社会を保障することなのである。」

「人権を無視したり、侵害するよつな行為をする政府は、単に義務を果たし得ないだけではない。その定める法律も、まったく統制力を失つのである。」(Pacem in Terrisより引用)

(いのちの福音、セクション71)

造血幹細胞研究と人間の胚

・そのキリスト教的見方

一九九八年の十一月、科学者たちは人間の造血幹細胞の分離と培養に成功したと発表した。それは20年もの間、研究者たちが成し遂げられなかった偉業である。彼らは、この造血幹細胞が

きな犠牲を伴う未来の医療について我々に問題提起をしている。

ソンのチームは、産婦人科から提供された余分な胚から造血幹細胞を取り出した。この過程には胚を滅亡させることが必要となった。ジョン・ゲアハート医師

のチームは、妊娠中絶後の胎児の組織から胚を取り出すことに成功した。

四、なぜ人間の胚を尊重しなければならないのか？

を抱いているのである。この手法を理解することで、生まれながらの障害やガンを防いだり治療したりする進歩した方法を見いだすことができるに違いない。さらに、実際には数に境界のある人間の造血幹細胞や組織を研究室で作りに出すことによって、今までは不可能だった新薬を薬剤研究者たちが発明、実験をおこなうことができるようになるだろう。

四、なぜ人間の胚を尊重しなければならないのか？

五、パーキンソン病や心臓病で苦しむ多くの人々を助けるために胚を破壊するのは、倫理的に認めやすいことなのだろうか？

パーキンソン病やアルツハイマー病、心臓病や糖尿病などを患う患者の健康を回復させるのに必要となる組織を作り出すものだ。と信じている。医療に革命をもたらすであろうこの医学的前進は、ナショナル・インスティテュート・オブ・ヘルス（NIH）をも刺激し、人間の胚から得られた造血幹細胞の研究にも政府の補助金が適用されるべきかどうかを検討するきっかけとなった。

造血幹細胞とは、人間の身体を形成する二百十種類の組織から生まれるものである。造血幹細胞はさらに特別な細胞に働きかけることはできるが、それ自体で人間を形作ることはできない。よって、胚とは違うことになる。しかし造血幹細胞を取り出すためには、人間の胚を破壊するという手法しかないのが現状である。

三、なぜ科学者たちは造血幹細胞を病気治療に役立てられると考えているのだろうか？

聖書の中でまだ生まれていない命に関する箇所（ヨブの書三一：15、詩篇 一三九：13、16、イザヤの書 四九：1、エレミヤの書 一：5、ガラツイア人への手紙 一：15、エフェソ人への手紙 一：3、4）には、それらが神によつて創られ、知らされ、特別に大事にされている人間であるということが書かれている。創世の書 九：6には、神とそっくりの姿で創造された人間（創世の書 一：26、27）を殺してはならないと警告している。さらに、人間の胚としての命、そしてすべての創造のためにあるものであつて、われわ

た。一九九四年以降、人間の胚の研究に政府資金を投入することは禁止されてきたが、一九九九年の一月になって、米厚生省（DHHS）は、胚から取り出された造血幹細胞はすでに胚ではないとの理由から、その研究に政府の補助金が適用されるという決定を下した。造血幹細胞が取り出された胚はすべて破壊しなればならないという事実は、大

二、科学者たちはどのようにしてこれらの造血幹細胞を取り出したのか？

多くの病気（パーキンソン病、心臓病、糖尿病など）が造血幹細胞の一種が死亡あるいは機能障害から引き起こされるため、科学者たちはこのような健康な造血幹細胞を患者の体内に入れることで、失われた機能を取り戻すことができると考えている。造血幹細胞の分離及び培養の方法を発見したことで、これらの造血幹細胞を患者へ移植する必要がある特定の造血幹細胞や組織に変えることができる

二、科学者たちはどのようにしてこれらの造血幹細胞を取り出したのか？

人間の胚による造血幹細胞研究を支持する人々は、生まれてくる数人の人間の命を守ることによつて多くの重症患者の治療が手遅れになるのは間違っていると主張する。しかし、私たちは非道徳的あるいは非倫理的手段を使つてまでよい結果を追い求めてはいけないのである（第二法の書 二七：25）。ドイツでナチが行つた医学実験も、科学という名のもとに行われ悪の結果を招いたことは、忘れてはならないことである。ある一定の人々（重病に苦しむ人々）の利益になるように別の人々（胚を利用される人々）が犠牲になるようなことがあつてはならないのだ。聖書は「善をきたらせるために悪をする」ことを繰り返している（ローマ人への手紙 三：8）。

二つの米国の科学者チーム（ウイスコンシン・マディソン大学とメリーランド州バルティモアのジョンズ・ホプキンス大学）が、それぞれ違った方法で造血幹細胞を分離して培養することに成功した。ジェイムス・トム

二つの米国の科学者チーム（ウイスコンシン・マディソン大学とメリーランド州バルティモアのジョンズ・ホプキンス大学）が、それぞれ違った方法で造血幹細胞を分離して培養することに成功した。ジェイムス・トム

二つの米国の科学者チーム（ウイスコンシン・マディソン大学とメリーランド州バルティモアのジョンズ・ホプキンス大学）が、それぞれ違った方法で造血幹細胞を分離して培養することに成功した。ジェイムス・トム

二つの米国の科学者チーム（ウイスコンシン・マディソン大学とメリーランド州バルティモアのジョンズ・ホプキンス大学）が、それぞれ違った方法で造血幹細胞を分離して培養することに成功した。ジェイムス・トム

二つの米国の科学者チーム（ウイスコンシン・マディソン大学とメリーランド州バルティモアのジョンズ・ホプキンス大学）が、それぞれ違った方法で造血幹細胞を分離して培養することに成功した。ジェイムス・トム

六、すべての造血幹細胞研究には人間の胚の破壊や中絶胎児の組織が必要なのだろうか？

国立生物倫理学諮問委員会(NBAC)は、人間の胚を使わなくても造血幹細胞研究ができる多くの方法を明らかにした。成人の組織にある造血幹細胞の発達と特殊化を促進する技術や、骨髄や臍帯血から造血幹細胞を取り出す方法などである。最近の科学的発見は、胚の破壊が造血幹細胞研究の有益な利用に必ずしも必要ないことを立証している。政府の資金援助は、胚の破壊のためよりも造血幹細胞研究の他の方法のために使われるべきである。例えば後者により早い実現性が認められるとしても、である。

七、だれが道徳的責任をとるのか？

胚の破壊を伴う研究を資金援助する者、研究を行う者はいずれも実際人間の胚の命を認めていることになる。よって非道徳的行為を犯したことになる。

八、どいつしたら事態を変

生殖技術に関する問題

授かるのであって、作られるのではない

不妊症がますます問題となってきました。その解決策を提議するための「生殖技術産業」の分野が、それに対応して発達してきました。

不妊症を克服する方法を見つけようとすると試みはまったく正当なことです。不妊の問題によつて、多くの夫婦がひどくつらい苦しみを味わっています。子どもというのは結婚のすばらしい贈り物であるので、妊娠や出産を妨げる障害を克服しようとするのはよいことなのです。

聖書には不妊症で苦しむ女性たちの記述がいっぱいあります。子どもを産めないということに

えられるのか？

人間の胚の破壊を伴わない造血幹細胞研究のみに資金援助をするように政府を説得することで人間の胚を守ることに協力してもらいたい。議員や新聞社あてに手紙を書いたり電話したり、電子メールを送ることであなたの声は届けられる。

(Center for bioethics and human dignity 2/5/99)

して女性が感じる悲しみは、夫の愛の力をもつてしても、軽減することはできなかったのです。現在不妊症治療に使われている多くの技術には、深刻な道徳的な問題が含まれているので、夫婦はその技術を利用する決心をする前に、これらのことを知っていなければなりません。一つ一つの技術は、それが本

に道徳的であるか、つまり、その繁栄が促進されるか否かを知るために評価されなければなりません。これらの技術の全てが、罪のない人間の生命に何らかの影響を与えるのです。ある医学的な介入が、結婚の行為によつて妊娠が達成できる手助けをするものならば、それは道徳的だとみなされるかもしれません。もし命を発生させる目的で、医学的介入が結婚の行為に取って代わるなら、それは道徳的だとは言えないのです。体外受精(IVF)はベトリ皿で新しい命を生じさせます。同時に何個もの卵子を成熟させる排卵誘発剤を飲んだ後で、いくつかの卵子が卵巣から吸い出されま

す。精子が男性から採取されま

なぜ、IVFは間違っているのでしょうか

体外受精においては、子どもが技術的な過程を経て発生させられるため、「品質管理」を受ける必要がある、もし「欠陥がある」ことがわかれば排除されるのです。体外受精の結果、胎児が殺されることは非常によくあることです。生きるか死ぬかは人間の決定にゆだねられることになり、従つて人間は法令によつて、生死を決めるのは自分であるかのようにふるまうのです。子どもは受精の「産物」だと呼ばれるようになります。そもそも体外受精においては、子どもは人間以下のものと扱われているのです。

ジョン・M・ハウス医学博士

赤ちゃんに奨励金

日本の大手おもちゃメーカーであるバンダイでは、廊下でも洗面所でも食堂でも最近一つの話題に集中している。それは第2子以降に対して、会社が従業員に百万円を支払うという発表を行ったことである。多くの企業が、親となった従業員にお祝い金を出しているものの、バンダイは赤ん坊の奨励金として日本で最高の額を提示した。長期的な人口不足問題をもたらす史上最低の出生率を何とか引き上げるべく、日本は今必死に取り組んでいる。

先月始まったこの制度は、出生率が世界で最も低い日本人に、積極的に子どもを産んでもらおうとする政府と雇用主の努力の一環である。一九九八年の日本女性の合計特殊出生率は1.38人と日本史上最低となっており、これは世界的に見てもかなり低い数字である。現在の人口は1億2千6百万人であるが、人口統計学者はこの数字が1億5百万人まで減少すると予測している。

フクロウ インフォネット 二〇〇〇年六月十二日

独特の無力さ

「いのちの福音の通り生きる」の中で、司教団は、中絶は人間の尊厳を著しく脅かすものだとして述べています。その理由の一つは、中絶が最も弱く、最も無防備な人間に行なわれていることであるからと、彼らは指摘しています。

胎児が自分では話すことができないのは明らかなことです。彼らは「運動」を起こすことはおろか、祈ることさえできないのです。私たちは攻撃を受けて、助けを求めることができなくても、それでも祈ることはできます。しかし、胎児にはできないのです。

さらに、その弱さにはもう一つの側面、つまり、もっと注目しなければならぬ胎児の能力の乏しさがありません。それは私たちに心理的な影響を与えることができる能力の乏しさです。

例えば、人々が飛行機事故で亡くなったり、兵士たちが出征したりすると、祈禱式が行なわれ、そのことへの関心が表面化します。

しかし、同じ数の赤ん坊が中絶で数分毎に殺されても、それに対する反応は比較にならないほど少ないのです。それどころか、ある筋からは、事実を言うことにさえ異議が沸き起こるのです。

この食い違いはどこにあるのでしょうか？問題の多くは、心の痛みを感じることにそれを否定することが私たちにどのような影響を与えるかということと関係があります。その問題のいくらかは、我々が道徳的価値感にどのように反応するかということと関係があります。道徳的レベルでは、すべての人間は平等で、この意味において人のいのちを奪うことは他の場合と同じく大いに悲劇的なことであると我々は容易に認めることがで

きます。攻撃を受けている道徳的善、つまり人のいのちのことを考えると、人間の年令は問題ではありません。しかし心理的には大きな違いがあり、胎児は常に不利な立場に置かれているのです。胎児の死は、中絶後の何らかの苦しみを経験している父母（そして家族の他の人々）に、耐えがたいショックをもたらしているにもかかわらず、我々や社会全体にとつてあまり影響を与えないのはなぜでしょうか？

その理由は、私たちが赤ん坊にまだ名前もつけていないし、声も聞いていないし、おそらく超音波診断以外では、姿も見えないからなのです。また、それぞれの赤ん坊が持っている、独特な個性にまだ触れて

いないからです。そして、又、その赤ん坊がどのような大人に成長するのか初期のきざしはまだ見ていないからなのです。これらすべてのことが、胎児の死が社会に大きな影響を与えない理由なのです。そうであれば、ここに私たちにとつての大きな問題があるのです。私たちは、主として心理的な面に基づいて道徳善の破壊に反応すべきなのではないでしょうか、それともむしろ道徳的な面に基づいて反応すべきなのではないでしょうか？もし前者だとすれば、胎児を殺すことは、(道徳的には同等な)年上の兄弟を殺すこととはほどは注目されな

フランク・ペイヴォン神父

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬：ピル

注文：	1 - - - - - 5	1部 = ￥100
	6 - - - - - 20	1部 = ￥75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ￥50
	1000 - - 以上	1部 = ￥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
- [202] 第二の処女生..... + 郵送料
- [203] デート..... + 郵送料
- [204] どうするの?..... + 郵送料
- [205] "NO"という技術..... + 郵送料
- [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
- [207] パーゼンの瀬戸際..... + 郵送料
- [208] していましたか..... + 郵送料
- [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
- [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
- [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
- [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
- [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
- [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
- [306] ミニソフィアAce エース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
- [407] 命美しいものは one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
- [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
- [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS).....15000 + 郵送料
- [411] (コース・セミナー) エイズ時代の性倫理...(VHS).....3800 + 郵送料
- [500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教え).....2987 + 郵送料
- [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド).....1000 + 郵送料
- [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
- [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
- [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
- [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....650 + 郵送料
- [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
- [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
- [509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
- [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
- [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
- [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
- [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
- [515] (本) 経口避妊薬：ピル.....100 + 郵送料
- [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

パンフレット申し込は・・・

1 ~ ~ 5	1部 = 35円
6 ~ ~ 100	1部 = 25円
101 ~ ~ 500	1部 = 20円
500 ~ ~ 以上	1部 = 15円

自由です
組み合わせは

「人間」の定義

あった。人間が人間であるゆえんは、ひとえに意思を持つているかどうかによるものであり、植物とすることをすれば、植物人間はもはや人間ではない。人間でなければ、栄養も水分も必要ないということらしい。

現代の医療技術によって、患者が救われるケースも少なくない。だが、技術の向上に伴って、道徳に波紋を投げかけるような問題も発生している。たとえば、医療器具を使えば生命を維持できる時、愛する人の命を存続させるかどうかを選ばなければいけないことがある。特定の医療措置を続けるかやめるかは、患者の判断に任せられる。患者が自分の意思を伝えることができないう場合は、状況はさらに難しい。

特に、植物状態にあつて昏睡から回復する可能性のない患者の場合同は、悲劇もひとしおである。植物人間の患者をどう扱うかという問題については、カレン・アン・クインランとナンシー・クルーザンの事例で、社会問題としてさんざん議論が交わされた。この議論の中心となったのは、流動食や点滴を患者に与えるのを中止すべきかどうかという点であつた。

植物状態にある患者は、法的には死亡していると判断されるべきであるという見解も登場した。それならば、流動食や点滴で患者に栄養を補給し続ける義務は、避けられるということになる。植物人間は死亡していると定義づける理由の1つに、脳に多大な損傷があるため、意思がないという主張が

あつた。人間が人間であるゆえんは、ひとえに意思を持つているかどうかによるものであり、植物とすることをすれば、植物人間はもはや人間ではない。人間でなければ、栄養も水分も必要ないということらしい。

植物状態にある患者のほとんどは、自己呼吸もでき、血液の循環機能も正常で、食べ物も消化吸収でき、周期的に睡眠状態と非睡眠状態を繰り返すし、ときには手足を動かしたり、笑みを浮かべたり、涙を流したり、外部からの刺激に反応したりする。人の動きを目で追う患者もいるという。ここまでの身体機能を持つていても、自分で栄養を摂取する能力がないという理由で、患者には意識も意思もなく、なんらかの反応をしてもそれにはまったく意味がないと言つた（ニュー・イングランド・ジャーナル・オブ・メディスン、1994年10月30日、1499頁、1508ページ、1572〜1579ページ）。

クリスチャンの中にも、植物状態の患者を同じように捉えている人たちがいる。人間は、神がご自分に似せて創られたのであるから、ある程度の身体的、精神的機能を備えていなければならないという。プロテスタント派のある信者などは、こう言つている。「自発的な行動ができない体と神とは似ても似つかない。自発的な行動が失われているということとは、死の定義を

満たしているのと同じことになる。」

聖書を読んで、神の何を似せて創られたのか」という疑問に対する直接的な答えは見つからない。

天地創造のくだりには、神が自分に似せて創造した人間とそうでない人間との違いなど書かれてはいない。そこにはただ、神はご自分の姿を写して人間を作られたとしか書いていない（創世の書 一：26、27）。神の創造物であるということには、ある特権をもちとされる。その姿が神に似ている（創世の書 一：26）ということと、地球の支配者（創世の書 一：26、28、30）であるということだ。神の創造物である人間は、いくつもの特色を備えている。つまり、理論的に思考したり、感情を持つていているということである。そして、すべての人間は、神の創造物である。

イエス・キリストも、似たような疑問を投げかけられたことがある。ある法律家がこう言つた。「私の隣人とはだれのことですか（ルカによる福音書 十：29）その法律家は、誰が自分の隣人で、誰がそうでないかがわかれば、それによって相手への態度も変わってくると思つた。そのため、出会う人を区別するための基準が欲しかつた。

イエス・キリストは、よきサマリヤ人のたとへ話で、この質問をしりぞけた（ルカによる福音書 十：30〜37）。この話はすべての人間は隣人であるということを確認に説明している。私たち全員が、それ

ぞれよき隣人として行動すれば、誰が隣人で誰がそうでないかなどと気にする必要はない。司祭とレビ人は、けがをした男を隣人とは思わず放つておいたので、男は道端で死亡した。「自分たちとは明らかに違う」と人を区別することは、逆に非人間的な精神を育てるだけである。

聖書に書かれてあるとおり、神の姿に似せて作られた人間ならば、形だけでなくその精神も含めて、神の真の姿をあらわすべく行動する。他人のあるべき姿を気にするのではなく、植物状態の人も含め、たすべての人に對して、自分がどうあるべきかを考える必要がある。神は、人間がもつても必要とする次のものを私たちに与えてくださることを約束された。隣人、保護、栄養の3つである（マテオによる福音書 六：25〜34）。神の姿を忠実にあらわす人間ならば、ほかの人に對しても同じことをするべきである（マテオによる福音書 二

十五：31〜46）。つまり、植物状態の患者にも食べ物と水分を与え、側にいてあげて、話しかけ、祈り、聖書を読んであげることである。

農夫は、どの種が成長するか知ることができなくても、種をまき続けなければならない（コヘレツトの書 十一：6）。つまり、先のこととはわからなくても、神による望みと保護を信じて行動しなくてはならない。植物状態の患者に栄養を補給し続けることがいい結果につながるかどうかはわからない。

しかしそれでも、神による奇跡のチャンスは患者から奪い去つてはならない。それでもまだ生き続けようと命を燃やしている患者を見ると、たまらない気持ちになることもあるだろう。しかし、栄養を与えないということは、希望を捨てることであり、神の奇跡も起こりえない。患者に死を与えるほうが楽で患者にとつても幸せに思えるかもしれないが、それでは真の解決になり得ない。

決断は難しい。しかし、特定の人間を神の創造物ではないと決め付けることは、選択肢に加えてはならない。植物状態にある家族に對して決断を下す人にとつては、患者は既に死んだも同然なのだから迷つことはないなどと説得されても、少しの助けにもならない。患者の家族は、患者が悲惨な状態にありながら生き続けており、回復する確立は非常に低いという事実と正面から向き合わなければならぬ。だが、患者本人は、ほかの人と同じように生きている人間であり、生きるための栄養を必要としている。

神は、損傷を受けたがために生きていく意味がほとんどないように思える人体をも、守り養つてくださる。暗い苦しみで満ちた世界にあつてこそ、神の栄光が照らし出されて見える。神の姿を写して創造された我々人間も、同じように苦しみの中に希望を見出すべきである。

事務所便り

明けましておめでとございます。21世紀の初めての年を、皆様、どのような抱負を抱いてお迎えになられたでしょうか。今年もこの運動のために力をあわせてともに働きましょう。

年のはじめにあたり、一つのプロ・ライフ資料が増えました。それはビデオで、『Dr.ドブソンのユース・セミナー3---エイズ時代の性倫理』(52分・二千八百円)と題されるものです。児童発達心理学で博士号を取得したドブソン博士と開業して23年になる産婦人科医師・マキルヘイニーの対話を十代の若者が目を輝かして真剣に聞き入っています。そして、後での若者と医師との質疑応答にも若者のその真剣さが光っています。最初ドブソン博士は訴えます。「数年前、私はワシントン厚生省からの依頼で十代の妊娠予防委員会の委員になりました。十代の妊娠を防止することには異議は全くなかったのですが、18人からなっているその委員会で15人は驚いたことに何を勧めたと思いますか?」と言つ間に若者は一斉に答えます。「コンドーム」と。「SAFE SEX」から「SAFER SEX」と言われるようになったことでしたが、『家族計画連盟』が存在する地域では「コンドームを若者に『安全なセックス』と称して広く行き渡らせようと学校教育の場にも持ち込んでいます。日本でも御多分にもれずです。その産婦人科医師は最近のデータから真実を話しています。最近激増している性感染症。クラミジアや梅毒やエイズ、小さいイボのようなものが出るあまり知られていないHPV...と数えると38もの性感染症があるそうです。教育現場にいる皆様、年頃の息子や孫のいる皆様、是非このビデオ御覧になって下さいませ。

日本プロ・ライフ・ムーブメント

十代の性(8)

セックスと結婚

つきあってセックスをし、結婚せずに終わるカップルが多い。若者の交際を次の4パターンに分けてみた。

- A. 純潔を貫いて結婚
- B. セックスしてから結婚
- C. セックスせず別れた
- D. セックスして別れた

A のカップルは強い信頼関係を育てる事ができる。結婚前にセックスしない方が浮気に走りにくいという調査結果もある。なぜならセックスや妊娠といっ

た余計な不安がないから。そして病気や出産などセックスが不可能な時も自制がたやすい。一方、逆の場合は結婚後も気持ち揺れやすい。

B のカップルは、罪悪感・不安・疑念などを抱きやすい。「自分たちは本当に愛し合っているのか、セックスがお互いを結びつけているのではないか、いつまで続けられるだろうか」と自問せずにはいられない。中にはセックスまでしちゃったし対面を保つためにと、誤った動機で結婚に踏みきる人もいる。

十代に最も多いのがC のカップルだと思われる。別れた後の悲しみや辛さも、数日眠れない夜を経れば解決する。じきに立ち直って、新しい交友関係を作り始める。

しかしD の場合、特に女の子が立ち直るのが、相当困難になってくる。思い入れが強い分、痛み・辛さも大きいからだ。裏切られ、利用されたらと悩み、人間不信に陥ることもあり、その後、ボーイフレンドや将来の夫となる相手と正面から向き合えなくなるおそれもある。

Q&A